

都市再生整備計画 事後評価シート

柿田川周辺地区

令和3年3月
静岡県 清水町

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	静岡県	町村名	清水町	地区名	柿田川周辺地区	面積	77.7ha						
交付期間	平成28年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和2年度	交付対象事業費	1,677百万円	国費率	0.242						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名											
		基幹事業	道路(町道22号線、町道126号線、町道201号線、町道125号線)、公園(柿田川公園、丸池周辺公園、総合運動公園)、地域生活基盤施設(福祉センター大規模改修)										
		提案事業	地域創造支援事業(町図書館整備事業、町保健センター整備事業)、まちづくり活動推進事業(事業効果分析)										
	当初計画から削除した事業	事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		基幹事業	道路(町道737号線) 下水道(柿田川公園) 高次都市施設(柿田川ビジターセンター)		道路(町道737号線):高質空間形成施設へ変更のため削除 下水道(柿田川公園):他の補助金へ変更のため削除 高次都市施設(柿田川ビジターセンター):計画期間内の完成が困難なため削除		高次都市施設(柿田川ビジターセンター)の削除:柿田川ビジターセンター利用駐車台数を柿田川公園利用駐車台数に変更。						
		提案事業	地域創造支援事業(宮西達也ミュージアム整備事業)		計画期間内の完成が困難なため削除		指標3公共施設のバリアフリー化率に影響するため、目標値を変更。						
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(町道757号線、町道206号線) 高質空間形成施設(町道737号線)		道路(町道757号線、町道206号線):丸池周辺公園整備事業から分離し、町道整備として追加 高質空間形成施設(町道737号線):点字ブロック設置要望により、道路事業から変更して追加		影響なし						
		提案事業											
	交付期間の変更	当初	平成28年度～令和2年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更	—										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	柿田川公園利用駐車台数	台/年	45,731	H27	58,000	R2	—	41,600	×	あり	公園施設の充実や周辺町道の整備により、柿田川公園の魅力と利便性が向上したが、令和2年度は新型コロナウイルスの流行により公園の利用者が減少し、利用駐車台数についても目標値を下回る見込みである。	令和3年9月頃
										なし			
	指標2	図書館・保健センター利用者数	人/年	33,730	H27	45,000	R2	—	47,100	○	あり	地域交流の拠点となる新たな図書館・保健センター(まほろば館)の整備が行われ、開館後1ヶ月平均の利用者数は図書館については旧施設と比較して倍以上の増加傾向が見られることもあり、保健センターとあわせ、目標値の45,000人/年を上回る見込である。	令和3年9月頃
										なし			
	指標3	公共施設のバリアフリー化率	%	66	H27	87	R2	—	87	○	あり	町道や図書館・保健センターなどの公共施設の整備が計画通り進んだことにより、公共施設のバリアフリー化率は目標値の87%を達成した。	
									なし				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
4)定性的な効果発現状況	・図書館・保健センターに関しては、複合施設として一体になり相互利用がしやすくなった。 ・福祉センターが整備され、災害時、福祉避難所として避難者を受け入れることができた。(福祉避難所とは、一般避難所に避難したが、避難所での避難生活が困難な高齢者、障がいのある方等を受け入れる2次的避難所) ・町道の整備による右折レーン増設に伴い、交差点内右折車両の整流化が図られた。 ・道路整備により歩きやすくなったことから、丸池公園、総合運動公園、柿田川公園がネットワーク化され、各拠点の結びつきが強くなるとともに、周辺の商業施設を含め周遊できるようになった。 ・安全な歩道が整備されて、ウォーキングをする人が増えている。 ・丸池周辺公園及び総合運動公園のジョギングコースが整備され、利用者からは好評である。												
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	・地区懇談会における都市再生整備計画事業に関する説明(H28～H29 計20回 参加者延べ886人) ・複合施設(図書館・保健センター)及び道路事業に関するまちづくり懇談会の実施(H29～H30 計34回 参加者延べ1,020人) ・清水町新図書館建設検討委員会の開催(H28～H30 計8回開催) ・清水町図書館運営委員会の開催(R1～R2 計3回開催) ・丸池周辺公園整備に関する住民説明会の実施(H29 計2回 参加者延べ51人)			都市再生整備計画に記載し、実施できた								
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●				
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	持続的なまちづくり体制の構築				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要

柿田川周辺地区（静岡県清水町）都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：自然と都市機能が共生する暮らし満足度日本一を目指し、暮らしやすく訪れたいまちづくり 目標1：恵まれた自然を保全しつつ、観光資源として活用し、交流人口が増加する環境整備の推進。 目標2：身近な地域で誰もが参加できる学習機会を提供するとともに、そこに集まる人々が相談や交流することで活力あるまちづくりを推進する。 目標3：高齢化社会への対応及び子育て環境の充実など誰もが暮らしやすく、地域内を歩いて暮らせることができるまちづくりを推進など安全で快適な生活の実現を図る。		柿田川公園利用駐車台数	台/年	45,731	H27	58,000	R2	41,600	R2
		図書館・保健センター利用者数	人/年	33,730	H27	45,000	R2	47,100	R2
		公共施設のバリアフリー化率	%	66	H27	87	R2	87	R2

The map illustrates the spatial distribution of projects categorized by color: yellow for core projects (e.g., Maruike Park, several roads), blue for proposed projects (e.g., Katsurikawa Park, some roads), and dashed lines for related projects. Specific project names are highlighted in boxes, such as the renovation of the library and health center (Maboroba-hall) and the large-scale renovation of the community center.

凡例

- 基幹事業 (Yellow box)
- 提案事業 (Blue box)
- 関連事業 (Dashed line)

まちの課題の変化

- 複合施設として、新たな図書館・保健センター（まほろば館）が整備され、地域交流の活性化が図られた。
- 柿田川公園の園路、トイレ等の施設の充実に伴い、自然環境に配慮した公園としての充実が図られた。
- 福祉センターの大規模改修により、地域防災施設として、要援護者支援体制の充実が図られた。
- 町道の整備により歩行者空間の充実が図られ、安全で快適な道路ネットワークの形成が図られた。

今後のまちづくりの方策（改善策を含む）

- 新たな図書館・保健センター（まほろば館）におけるイベントの開催等により、町民の交流を促進する拠点としての活用を図る。
- 町の政策や財政状況を踏まえながら、旧図書館の敷地の今後の利用方針を検討する。
- 整備された柿田川公園における施設の適正な維持・管理と水辺空間の保全を図るとともに、学習機能導入のための環境整備や情報発信の機会の創出、傾斜や階段が多い堂庭口遊歩道などの利用者の安全性に配慮した施設整備の改善を検討する。
- 福祉センターと自治会等の組織が連携した要援護者の支援体制の充実を図る。
- 整備された安全な歩行者空間の適切な維持・保全を図る。
- 第三者団体との協働を図り、読書推進や保健・健康増進ばかりでなく、その他の成果・効果も図られるような事業の展開を検討する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1ー① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1ー② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)
- 添付様式2ー① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測
- 添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3ー① モニタリングの実施状況
- 添付様式3ー② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3ー③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4ー① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4ー② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4ー③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5ー① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5ー② まちの課題の変化
- 添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5ー④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1ー① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		【指標1】柿田川ビクターセンター利用駐車台数	【指標1】柿田川公園利用駐車台数	柿田川ビクターセンターの計画が取り止めとなったため、柿田川公園利用駐車台数に変更する。
C. 目標値	●		【指標1】柿田川ビクターセンター利用駐車台数:50,000台/年(令和2年度) 【指標3】公共施設のバリアフリー化率:80%(令和2年度)	【指標1】柿田川公園利用駐車台数:58,000台(令和2年度) 【指標3】公共施設のバリアフリー化率:87%(令和2年度)	【指標1】駐車台数については、令和2年度に50,000台としていたが、平成28年度に目標を達成したことから、58,000台に変更する。 【指標3】柿田川ビクターセンターの計画が取り止めとなり、また、他の公共施設が計画区域外に移築されたため、公共施設数の変更が生じたことから、87%に変更する。
D. その他()		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	町道22号線	28	L＝160m	28	L＝177m	事業量(延長)の増加、工事内容変更(サイン設置計画取りやめ)	影響なし	●	
道路	町道126号線	15	L＝123m	20	L＝95m	カラー舗装化による事業費の増加、施工延長に減少による事業量の減少、工事内容変更(サイン設置計画取りやめ)	影響なし	●	
道路	町道737号線	39	L＝341m	0	L＝0m	高質空間形成施設へ変更のため削除	影響なし		
道路	町道201号線	12	L＝101m	25	L＝115m	舗装グレードの向上及び事業量(延長)に伴う事業量の増加、工事内容変更(サイン設置計画取りやめ)	影響なし	●	
道路	町道125号線	33	L＝292m	247	L＝250m	用地取得や物件補償に伴う事業費の増加、事業量(延長)の減少、工事内容変更(サイン設置計画取りやめ)	影響なし	●	
道路	町道757号線	—	なし	29	L＝257m	事業の追加、工事内容変更(サイン設置計画取りやめ)	影響なし	●	
道路	町道206号線	—	なし	16	L＝105m	事業の追加、工事内容変更(サイン設置計画取りやめ)	影響なし		●
公園	柿田川公園	100	416㎡	78	128㎡	計画内容の変更に伴う事業量(規模)及び事業費の減少	影響なし	●	
公園	丸池周辺公園	243	4,000㎡	208	1,731㎡	計画内容の変更に伴う事業量(規模)及び事業費の減少	影響なし	●	
公園	総合運動公園	33	1,300㎡	54	1,300㎡	事業費の精査による増加	影響なし	●	
古都保存・緑地保全等事業									
河川									
下水道	柿田川公園	50	—	0	—	他の補助金へ変更のため、事業の削除	影響なし		
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	福祉センター大規模改修	22	205㎡	18	205㎡	事業費の減少	影響なし	●	
地域生活基盤施設									
地域生活基盤施設									
高質空間形成施設	町道737号線	—	なし	6	L＝341m	点字ブロック設置要望を受け、高質空間形成施設(障がい者誘導施設)として事業の追加	影響なし		●
高次都市施設	柿田川ビジターセンター	1208	2,400㎡	0	0㎡	計画期間内の完成が困難なため事業の削除	・指標1について、柿田川ビジターセンター利用駐車台数から柿田川公園利用駐車台数に変更。 ・指標3公共施設のバリアフリー化率における母数から削除となったため、目標値を変更。		
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅町街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1ー② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅町街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業	町図書館整備事業	400	1,200㎡	653	1,744㎡	基本設計等の実施による事業量(面積)及び事業費の増加	影響なし	●	
	宮西達也ミュージアム整備事業	112	200㎡	0	0㎡	計画期間内の完成が困難なため事業の削除	・指標3公共施設のバリアフリー化率における母数から削除となったため、目標値を変更。		
	町保健センター整備事業	290	1,130㎡	292	731㎡	基本設計等の実施による事業量(面積)の減少	影響なし	●	
事業活用調査									
まちづくり活動推進事業	事業効果分析事業	3	—	3	—	なし	—		●

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無	
															あり	なし
指標1	柿田川公園利用駐車台数	台/年	令和2年4月から8月までの実績値に、9月以降の新型コロナウイルスの影響を考慮した推計値を加え、評価値(見込値)とする。			45,731	H27	58,000	R2	モニタリング			モニタリング		● コロナ禍の状況による	
										事後評価	確定 見込み	● 41,600	事後評価	×		
指標2	図書館・保健センター利用者数	人/年	令和2年7月に開館した図書館・保健センター(まほろば館)の1ヶ月平均の利用者数をもとに、12ヶ月間の利用者数を推計し評価値(見込値)とする。			33,730	H27	45,000	R2	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み	● 47,100	事後評価	○		
指標3	公共施設のバリアフリー化率	%	令和2年度の地区内の公共施設整備計画の進捗状況から、バリアフリー化を計測し、評価値(見込値)とする。			66	H27	87	R2	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み	● 87	事後評価	○		
										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			
										モニタリング	—		モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	公園施設の充実や周辺町道の整備により、柿田川公園の魅力と利便性が向上したが、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、公園利用者が減少し、利用駐車台数も目標値の58,000台/年を大きく下回ると見込まれるため。	
指標2	令和2年7月に開館した図書館・保健センター(まほろば館)の開館後1ヶ月平均の利用者数をみると、図書館については旧施設と比較して倍以上の増加傾向が見られることもあり、保健センターとあわせ、令和2年度の利用者数は47,100人/年と推計され、目標値の45,000人/年を上回る見込みとなったため。	
指標3	町道や図書館・保健センター(まほろば館)などの公共施設の整備が計画通り進んだことにより、公共施設のバリアフリー化率は目標値の87%を達成したため。	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことという。

※2 目標達成度の記入方法

○：評価値が目標値を上回った場合

△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
					基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・図書館・保健センターに関しては、複合施設として一体になり相互利用がしやすくなった。
- ・福祉センターが整備され、災害時、福祉避難所として避難者を受け入れることができた。(福祉避難所とは、一般避難所に避難したが、避難所での避難生活が困難な高齢者、障がいのある方等を受け入れる2次的避難所)
- ・町道の整備による右折レーン増設に伴い、交差点内右折車両の整流化が図られた。
- ・道路整備により歩きやすくなったことから、丸池公園、総合運動公園、柿田川公園がネットワーク化され、各拠点の結びつきが強くなるとともに、周辺の商業施設を含め周遊できるようになった。
- ・安全な歩道が整備されて、ウォーキングをする人が増えている。
- ・丸池周辺公園及び総合運動公園のジョギングコースが整備され、利用者からは好評である。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
・地区懇談会における都市再生整備計画事業に関する説明	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	・町長が参加する地区懇談会において、柿田川周辺地区都市再生整備計画事業に関する報告を行った。 ・地区懇談会は、平成28年10月に4回、平成29年5月～7月に計16回開催した。 ・参加者は、平成28年度は延べ191人、平成29年度は695人となっている。	
・複合施設(図書館・保健センター)及び道路事業に関するまちづくり懇談会	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	・図書館・保健センター複合施設及び道路事業に関するまちづくり懇談会を、平成30年3月から8月まで計34回開催した。 ・参加者は延べ1,020人となっている。	
・清水町新図書館建設検討委員会	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	・新図書館の基本的な考え方(コンセプト)や館内及び館外施設、管理運営等に関して検討する「清水町新図書館建設検討委員会」を平成28年11月から平成30年1月まで計8回開催した。	
・清水町図書館運営委員会	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	・新図書館の利用方針について検討する「清水町図書館建設運営委員会」を令和元年に2回、令和2年に1回開催した。	
・丸池周辺公園整備に関する住民説明会	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	・丸池周辺公園の整備に関する住民説明会を平成29年7月23日、11月28日の2回開催した。 ・参加者は延べ51人となっている。	

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	i. 体制構築に向けた取組内容 ii. まちづくり組織名・組織の概要	

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討委員会	企画課長 建設課長 都市計画課長 福祉介護課長 健康づくり課長 社会教育課長	第1回:令和2年8月20日 第2回:令和2年9月18日	企画課

添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標3			
指 標 名		図書館・保健センター 利用者数		公共施設のバリアフリー化率			
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見
基幹事業	道路 町道22号線	—	複合施設として、地域 交流の拠点となる新た な図書館・保健センター (まほろば館)の整備が 行われ、令和2年7月に 開館した。 開館後1ヶ月平均の 利用者数をみると、図 書館については旧施設 と比較して倍以上の増 加傾向が見られること もあり、保健センターと あわせ、令和2年度の 利用者数は47,100人/ 年と推計され、目標値 の45,000人/年を上回る 見込みとなった。	◎	町道737号線の点字 ブロックの整備や、図 書館・保健センター(複 合施設)の整備によ り、既存の施設とあわ せた地区内の公共施 設のバリアフリー化が 進んだ。 これらにより、地区内 の公共施設のバリアフ リー化率は87%とな り、目標値である87% を達成した。		
	道路 町道126号線	—		◎			
	道路 町道201号線	—		◎			
	道路 町道125号線	—		◎			
	道路 町道757号線	—		◎			
	道路 町道206号線	—		◎			
	公園 柿田川公園	—		—			
	公園 丸池周辺公園	—		—			
	公園 総合運動公園	—		—			
	地域生活基盤施設 福祉センター大規模改修	—		◎			
提案事業	高質空間形成施設 町道737号線	—		◎			
関連事業	地域創造支援事業 町図書館	◎		◎			
	地域創造支援事業 町保健センター	◎		◎			

※指標改善への貢献度
◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○:事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に
貢献しなかった。
—:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確
なので、評価できない。

今後の活用	新図書館・保健センター(まほろば館)の交流拠点としてのさらなる利活用、情報発信等の取り組みを図る。	バリアフリー化された公共施設等の適正な維持・管理を図る。		
-------	---	------------------------------	--	--

添付様式4ー③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1											
指 標 名		柿田川公園利用駐車台数											
種別	事業名・箇所名	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類
基幹事業	道路 町道22号線	△	トイレや園路などの公園施設の充実により、良好な自然環境を有する柿田川公園の魅力が向上するとともに、町道201号線及び125号線などの整備により、観光客を含む公園利用者の利便性の向上が図られた。しかし、令和2年度は新型コロナウイルスの影響による非常事態宣言が発令されたこともあり公園利用者が大幅に減少し、令和2年度の柿田川公園利用駐車台数は41,600台/年と推計され、目標値の58,000台/年を下回る見込みとなった。	Ⅲ									
	道路 町道126号線	△											
	道路 町道201号線	△											
	道路 町道125号線	△											
	道路 町道757号線	△											
	道路 町道206号線	△											
	公園 柿田川公園	△											
	公園 丸池周辺公園	△											
	公園 総合運動公園	△											
	地域生活基盤施設 福祉センター大規模改修	—											
	高質空間形成施設 町道737号線	—											
提案事業	地域創造支援事業 町図書館	—											
	地域創造支援事業 町保健センター	—											
関連事業													

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、
 指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、
 指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、
 ある程度の効果をあげたと思われる。
 —：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
 明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	柿田川公園のアクセス性など、利便性の向上を図るとともに、自然環境に配慮した水辺空間等の維持・保全を図り、公園利用者の増加を図る。			
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5ー① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討委員会	企画課長 建設課長 都市計画課長 福祉介護課長 健康づくり課長 社会教育課長	第1回:令和2年8月20日 第2回:令和2年9月18日	企画課

添付様式5ー② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
老朽化した図書館・保健センターに代わる拠点施設の整備と地域交流の活性化	・複合施設として、新たな図書館・保健センター(まほろば館)が整備され、地域交流の活性化が図られた。	・旧図書館の解体時期及び敷地の今後の利用方針が未定である。	・読書推進事業と保健衛生・健康増進事業を協働で行っているが、各種事業には対象者などの条件があることから参加者が限定されている。
柿田川公園の整備による自然環境に配慮した、水辺空間の保全と創出	・柿田川公園の園路、トイレ等の施設の充実により、自然環境に配慮した公園としての充実が図られた。	・柿田川ビジターセンターが計画上取りやめになり、柿田川の環境保全の取組などの学習機能や柿田川の魅力に対する町内外への情報発信機能の充実の方向性が定まっていない。	・柿田川公園の堂庭口遊歩道において、傾斜や階段が多い形状を、より安全で利用しやすい形状にして欲しい、という要望がある。
要援護者の支援体制を整えた施設整備	・福祉センターの大規模改修により、地域防災施設として、要援護者支援体制の充実が図られた。		
歩行者優先の考え方に基づいた、安全で快適な道路環境の整備	・町道の整備により歩行者空間の充実が図られ、安全で快適な道路ネットワークの形成が図られた。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	地域の交流拠点としての図書館・保健センター(まほろば館)の活用	・まほろば館におけるイベントの開催等により、町民の交流を促進する拠点としての活用を図る。	・交流イベント、フリーマーケット等の開催
	自然環境に配慮した柿田川公園の水辺空間の保全	・整備された公園施設の適正な維持・管理と水辺空間の保全を図る。	・公園施設の維持管理 ・公園や柿田川周辺の美化活動
	福祉センターを中心とした要援護者の支援体制	・自治会等の組織と連携した要援護者の支援体制の充実を図る。	・防災訓練、避難訓練等の実施
	安全で快適な歩行者空間の維持・保全	・整備された歩行者空間の適切な維持・保全を図る。	・道路等の公共施設の維持管理

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	柿田川に関する学習及び情報発信に関する機能の充実や公園利用者の安全性に配慮した柿田川公園の施設整備	・学習機能導入のための環境整備や情報発信の機会を増やすためにSNSの有効活用など手法を検討する。 ・住民要望を踏まえ、傾斜や階段が多い堂庭口遊歩道など、公園利用者の安全性に配慮した施設整備の改善を検討する。	・公園事業
	旧図書館の敷地の利用方針	・町の政策や財政状況を踏まえながら、今後の利用方針を検討する。	・旧図書館の利用方針の検討
	読書推進や保健・健康増進以外の協働事業の展開	・商工会やゆうすい未来機構等といった第三者団体との協働を図り、読書推進や保健・健康増進ばかりでなく、その他の成果・効果も図られるような事業の展開を検討する。	・第三者団体との協働事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4ー②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4ー③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5ー②)を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5ー④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2ー①、2ー②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2ー①、2ー②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度		年度		確定	見込み			あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	柿田川公園利用 駐車台数	台/年	45,731	H27	58,000	R2	確定	●	41,600	×	あり	●	令和3年9月頃	新型コロナウイルスの影響を 考慮した上で、柿田川公園利 用駐車台数を計測する。	
指標2	図書館・保健セ ンター利用者数	人/年	33,730	H27	45,000	R2	確定	●	47,100	○	あり		令和3年9月頃	新型コロナウイルスの影響を 考慮した上で、図書館・保健セ ンターの利用者数を計測する。	
指標3	公共施設のバリ アフリー化率	%	66	H27	87	R2	確定	●	87	○	あり				
							見込み				なし				
その他の 数値指標1							確定								
							見込み								
その他の 数値指標2							確定								
							見込み								
その他の 数値指標3							確定								
							見込み								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		・数値指標1: 柿田川公園利用駐車台数及び数値指標2: 図書館・保健センター利用者数のように、人の移動を伴う数値指標については、今後も災害や感染症等の流行により、目標値の達成に影響が出ることが予想されることを念頭においておくべきと考えられる。
	うまくいかなかった点	・指標1: 柿田川公園利用駐車台数については、新型コロナウイルスの流行に伴う非常事態宣言により、令和2年4月～5月にかけて大幅に公園利用者が減少したことが原因で目標値を大きく下回るものとなった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・平成30年3月から8月まで計34回開催した図書館・保健センター複合施設及び道路事業に関するまちづくり懇談会については、延べ1,020人の参加者があり、特に図書館・保健センター複合施設については、町民の関心が高かったことが伺える。 ・まほろば館として令和2年7月に開館した新たな図書館・保健センターについては、開館直後から多くの利用者が訪れ、目標値を達成する見込みである。	・今回整備を行ったまほろば館(図書館・保健センター)のように、町民生活に密着した施設の建設にあたっては、計画段階から丁寧な説明を行い、的確に住民ニーズを踏まえることが重要であると考えられる。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	令和2年10月6日(火)から11月4日(水)まで	令和2年10月6日(火)から11月4日(水)まで	電子メール、郵送、ファックス、持参	企画課
広報掲載・回覧・個別配布	広報しみず令和2年10月号に公開方法を掲載	令和2年10月6日(火)から11月4日(水)まで	令和2年10月6日(火)から11月4日(水)まで		
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	1名の方から、下記の2件の意見が提出され、町HP上で以下の通り回答した。 事後評価シート「様式2-1評価結果のまとめ」について ①:2)定量化する指標の達成状況の指標について 【意見】 指標1として柿田川公園利用駐車台数があるが、本事業費全体に占める柿田川公園事業費は、約4%で、その比率は極めて小さく、事業費率からみて本事業の指標として適正ではないものと考えます。 【回答】 本事業により、丸池公園・総合運動公園・柿田川公園をネットワーク化することが目的のひとつであり、当該指標は柿田川公園整備単体の効果測定指標ではなく、周辺道路整備の効果も含めて設定した指標であることから適正であると考えます。 今後、事業を計画する際には参考とさせていただきます。 ②:4)定性的な効果発現状況の町道整備について 【意見】 本事業における道路整備は、柿田川公園と丸池などの往来が安全かつ快適にできるよう、それらを結ぶ既存道路・歩道の改修整備を目的に計画された事業で、当初の計画にない道路用地の買収費約7,150万円を含めた事業費2億4,500万円の町道125号線事業は、本事業の目的とは違う内容が含まれていたものと考えます。 ※比率及び事業費は、令和元年12月第4回変更の様式3の中の事業費から算出・引用、また道路用地買収費は開示された土地売買契約書から引用 【回答】 本事業では、当初計画から丸池公園・総合運動公園・柿田川公園にかけての安全で快適な遊歩道及び車道の整備をするため、町道125号線の整備を位置付け進めてきていることから、本事業の目的のとおりであると考えます。 今後、事業を計画する際には参考とさせていただきます。
-------	---

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	西原 純 静岡大学名誉教授	令和2年11月17日	企画課	清水町都市再生整備計画事業評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	奥山 理恵子 健康づくり推進委員会委員長 佐藤 英行 玉川区長 長倉 清隆 図書館運営委員会委員長 野田 久男 伏見区長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、国から事後評価において考慮すべき事項等に関する通知があったか、という質問があった。 ⇒国からの通知はないと回答
	成果の評価	・指標3の公共施設のバリアフリー化率の件に関して、具体的なバリアフリーの評価基準が分かりにくい、という意見があった。 ⇒個別の施設については、現状に配慮しながら工夫して整備を行っている旨を回答。 ・図書館・保健センターに関しては、「複合施設として一体になり相互利用がしやすくなった」という定性的な評価ができる、という意見があった。 ・丸池公園や道路(歩道)の整備により、周辺の商業施設や柿田川公園等を周遊して利用できるようになった、という意見があった。
	実施過程の評価	・実施過程については懇談会や説明会等必要な手順を踏んでいるという評価の一方で、若い人たちの参加が課題である、という意見があった。
	効果発現要因の整理	・個別の基幹事業、提案事業が指標についてどんな具合に作用しているか分かりやすく記載されており、定性的な効果発現状況についてはその通りだと思う、という意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・特に意見はなかった。
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価手続きに関しては妥当に進められたことが確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・旧図書館については解体せずにビジターセンターに活用できないか、という意見があった。 ⇒旧図書館の地盤面などに課題があり、旧建物は解体を視野に入れている旨を回答。 ・読書推進や保健・健康増進以外の協働事業の展開の改善策について、商工会やゆうすい未来機構等といった第三者団体との協働で具体的にどうすることを想定しているのか分かりにくい、という意見があった。 ⇒協働で柿田川を紹介したビデオを図書館の視聴覚室で流す予定がある等、色々なところまで踏まえて協働できるとよい旨を回答。 ・柿田川の活用については小中学校との連携、様々な年齢層の人を巻き込んだまちづくりが大事、という意見があった。
	フォローアップ	・特に意見はなかった。
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策については妥当であることが確認された。
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。